

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和4年度第1回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和4年4月18日(月) 午後3時～5時00分
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子 閑念勝代、高田祐久子
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	—
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育創造部長 足立英則 学校教育課主幹兼教育研究室室長 衣川正昭 幼保連携課長兼幼児教育センター長 長井恵美 幼保連携課主査 山下秀華 幼保連携課（幼児教育センター）藤原幸恵 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳 幼保連携課（幼児教育センター）小東さゆり
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 令和3年度就学前教育推進事業報告について (2) 令和4年度就学前教育推進事業計画について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会 委員の交代及び事務局職員の異動を紹介
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) ここからの進行は、委員長にお願いします。
委員長	3 令和3年度就学前教育推進事業報告について

事務局	<p>事務局説明</p> <p>資料1 令和3年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会 報告書(案)について</p> <p>～3年度訪問、報告書について 保育内容～</p>
各委員	<p>保育の質としては3年かけて徐々に向上はしてきているとは思 う。向上部分としては、自己評価の意義の理解、評価と改善のサイ クルの浸透である。次への課題、今後に向けてという部分では、幼 保連携型認定こども園教育・保育の実践的な理解として、ドキュメ ンテーションや写真を使った取組や、次年度に向けて、自己評価の 全ての項目に、○、☆、★を記入し、多面的な視点で検討してい くことを、提案・報告した。それによって次のステージを目指してい くといいのではと考える。</p> <p>保育の環境作りについて意識して取り組まれていた。これまでど ちらかという設定保育で保育者が中心に進めていく保育が主流だ ったが、日々の保育において保育者が提供する意図的な活動と、園 児が自分で選択しながら自分なりの遊びの世界を広げていく自由遊 びのバランスの大切さに気づき始め、自由遊びを支える保育環境を 工夫する意欲も徐々に感じられた。今後は、普段の何気ないまご とやブロックの遊びの写真による園内研修の実施により、子どもの 姿を理解していくような取組を入れてはどうかという提案・報告を した。</p> <p>全般的にどのクラスにおいても、保育の基本的な考え方である 「環境を通して行う」という意識が浸透しており、発達に応じた環 境づくりが工夫されていた。次への取組として、保育者の資質向上 の視点では、ドキュメンテーションや子どもの写真等を活用した、 個々の子どもの遊び心や発達を理解するような園内研修を行い、保 育の意味づけを意識していけるよう提案・報告をした。</p> <p>造形活動を一生懸命されており園児がダイナミックに立体や平面 の作品に取り組むとともに、個々に応じたシステム化された評価方 法(プラス内容)もあり、その点ではよかった。後期訪問では、み んなで一つのことに取り組む活動を取り入れ、個々の子どもの様子</p>

から協働的な活動へと移行してきていた。今後は、個々の特性や環境に応じた適切な関わり、子どもの読み取り方、普段の保育の中にも園児一人一人の言葉（発言やつぶやき）に応じたり引き出したりできるように、それぞれの保育者の段階もあるが、一つにまとまりながら全体として上がってほしいと考え、提案・報告した。

自然環境も豊かで、環境整備という点で色々な食材や小動物を通して、子どもたちの活動を深めていこうという意欲が見られた。乳児では一斉活動が多く少し懸念したが、後期訪問ではコーナー設定を工夫され、個々の子どもたちが没頭して遊べる環境に目を向けるようになってきていた。少しずつ保育者の視点が子ども中心に、子ども側に立ちながら保育が進められつつあった。ドキュメンテーションも生き物や食材に対する関わりや、変化に気付く点に保育者が目にとめて記録してあった。今後は、一人一人に寄り添った関わりを一層深め、子ども同士が他者の存在を意識し、協働して遊びや生活を創り上げるような保育を目指していただきたいと、提案・報告をした。

3～5歳児それぞれが、5領域や10の姿を意識しお便りやドキュメンテーションを作成し、伝える努力をされていた。3歳用の園庭もうまく活用し、4・5歳児は山に行つて活動をする中で、思考力・表現力といったことを育てる内容が多くなされていた。特に夏は、砂や水を活用し、自然科学の分野に目を向ける保育活動が多くあり、そこに中学校教諭を招くなど、色々と交流をしながら、園・小・中のつながりも感じられた。ドキュメンテーションについても、記録を見ただけで子どもの様子が分かる発信元という役割を果たしている。今後、小学校にもっと見ていただいて、こういう意味があるということを理解いただきたいので、校長会の方でも連携をお願いしたい。

園全体でいい風土が生まれてきていた。前期訪問で助言した内容を、一度チャレンジした上で、ダメだったという話が聞けたり、園全体としてより良い保育をしていくために、検討されたりしていた。また、前期に助言した内容について、全体に広げていこうと前向きに進められたという話や、助言した改善点が実際に他クラスにも広がっていて、園全体のこととしてとらえていく意識のある園だ

と思った。今後は、園児の考える力を引き出すという活動を意識して取り入れていくことを、提案・報告した。

一人一人の保育者がとても熱心に保育をされていた。ただ、まだまだ経験の浅い保育者が多い印象があるので、年数を重ねていくことでの園の良さとか、保育方法の定着が子どもに還元されていくのではないかと思った。今はまだ保育するのに精いっぱいという部分もあるように感じたので、その先生方の頑張りに対して助言させていただいた。今後に期待がもてる園である。

保育に関しては安定していて、モデルのような園である。訪問した際もワンランク上のアドバイス、例えば、『ドキュメンテーションを作る』ではなく『ドキュメンテーションの活用、子どもと共に作ったり、小学校のことを視野に入れたりする』等を伝え、それを実践しようと精一杯取り組まれていた。保育者だけではなく、園長も園全体のことをよく考えられているのが印象的であった。良いものは取り入れようという気持ちが強く感じられたことを報告した。

～3年度訪問、報告書について 特別支援内容～

委員

報告書には、『子どもたちの特性や障害に応じた取組について』主なアドバイス内容と提案を取りまとめている。

全園を訪問する中、一番多い相談で気になったのが、集団不適応を起こしている、少し発達特性があるかと思われる子どもの対応に困難さを抱えている事例である。コロナ禍で、家庭・園で色々な経験をする機会が減少しているのが原因でもあり、集団での困難さは家庭ではあまり見受けられず、更に環境に慣れると不適応が減少するので、保護者の理解につながらないという課題があった。

3年間の相談を通して、保育者の発達特性に関する理解も増えてきているかと思う。困難事例だけでなく、今行っている対応についての話ができる先生が徐々に増えてきたと感じている。

重度の障害をもつ子、医療的ケアの必要な子、また、ケアは要らなくてもハンデがあるような子についても引き受けられる園が出て

	<p>きている。地域でという園長の思いで引き受けられているが、現場には不安感も多々あるのではないか。園だけで頑張るのではなく、地域の力を借りたり共有したりすることが、今後の方向性と感じる。</p> <p>大変なことだとは思いますが、地域でインクルーシブに子どもを育てるために、園内ではサポートファイルを上手に活用するとともに、サポートファイル作成案内のために、将来に向けての活用方法などのメリットについても、少しずつ園に広げたい。</p> <p>～ その他 意見交換 報告書記入にあたって ～</p>
委員	<p>各委員の記入に当たっては、それぞれの園が報告書を読んだ時、的確に指摘されていると感じ、次に向けてどうやっていけばいいのかの手掛かりになるように配慮した。</p>
委員	<p>少なくとも初年度や2年目に比べると向上してきている部分を記入した。その歩みが急上昇という感じの印象の園や、地道にスモールステップで伸びてきている園等、それぞれあり、継続して訪問することがこの取組の良さにもなっているのではないか。</p>
事務局	<p>3年間の訪問で感じたことは、委員それぞれ伝え方は違っていても、保育の本質や大事なポイント・助言内容は同じであり、報告書についても、それぞれの委員の書き方で記入されていると思う。</p>
委員長	<p>4 令和4年度就学前教育推進事業の計画について</p>
事務局	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2 「4年度年間スケジュール表」</li> <li>・資料3 「視察訪問各園希望まとめ」</li> <li>・資料4 「年間スケジュール」</li> <li>・資料5 「特別支援視察訪問案」</li> </ul>
委員長	<p>スケジュールと特別支援の訪問について、私からは、特別支援について、例えを見ると、午前中の①②でおよそ90分位、午後からもあるとして、大体どの園も2・3学年、たくさんの学年を希望する</p>

委員	<p>園があった場合は、いかがでしょうか。</p> <p>実際のところ、似たようなケースが多いので、できれば園でもケースバックができればと考えている。3年間の中で、ある程度似ていると感じながら、助言を聞いてくださる園・保育者も増えてきている。全てのケースを見る必要はないと思っているが、園の体制に変更がある場合は、多くのケースを短く見ることもあるかと思う。基本的に、一つの事例をじっくりとかかわっていきたい。まずは、今どう感じて、どう支援や対応をしているのかというところからお伺いできたらと思い提案した。</p>
委員長	次に資料6・7について
事務局	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料6「4年度視察訪問」</li> <li>・資料7「視察訪問質問（保育内容・特別支援）」</li> </ul> <p>変更点を説明</p>
委員	資料7、視察訪問質問（保育内容）について、変更点の『今年度頑張りたいこと』は説明をすれば分かるが、受け取り方によっていろいろな記述にならないか、少し心配である。
事務局	主語が『保育者が』『子どもが』によって、『保育者が今年頑張りたいこと』『子どもが頑張りたいこと』のいずれにもなりうるということを御指摘いただいていると思うが、何かいい案をいただけないだろうか。
委員	『質の向上に向けて今年頑張りたいこと』と記入すれば保育者が主語にはなるか。
委員	昨年度、保育内容の質問に特別支援内容が多いように感じた。先生方の困り感が質問になったと思うので、その子を含めた保育・クラス運営や全体での支援に向けて少し遠慮をしながら伝えた。特別支援担当の先生とは分業できているかと思うが、特別支援担当の先生の方が適切な助言ができるのではと考える。
委員長	提案ですが、『西脇市共通カリキュラム冊子の確認・理解』とい

	<p>うチェック項目や、『幼保連携型認定こども園教育保育要領の理解や確認』という項目、更に欲を言えば『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』『資質能力の理解』の項目に、A・B・C等、記入いただくのはどうか。それが誘導となり、保育の視点での質問が出てきやすいのではないか。そして、少なくとも市内共通カリキュラムを先生方が意識・理解することは必要で、作成当初から5年経過し、カリキュラム研修会を去年2回行った。今度は、園全体が、一人一人の保育者が、カリキュラムを意識する必要があるのではと思う。事務局の考えは。</p>
事務局	<p>自己評価の項目が市内共通カリキュラムの意欲の部分を活用しているので、各園の先生方の理解・確認は必要かと思う。作成をするに当たっては、カリキュラムを見る必要があるため、質問項目を増やしたい。ただ、理解度のチェックは先生方の主観によって違う気がするので、カリキュラムを確認したことのチェックボックスを設ける位が、今は望ましい気がする。もう一点の変更部分である、質問項目に担任から頑張りたい事の記入欄の追加について、3年度委員会で園の目標や特色をとという意見が出たので提案している。先生方の御意見を伺いたい。</p>
委員	<p>あまり負担にならないのが一番いいと思う。書く時にしんどいなと思われると嫌だが、少し意識してほしいと思う。</p>
委員長	<p>資料7の最後に余白部分に記入いただくのはどうか。視察の時に参考にさせていただくという程度で、きちんとした枠がない方が良いかと思う。</p>
委員	<p>昨年、ある園長が初めの挨拶で『園は今これを頑張っている』という話をされた。その後の参観も、その視点をもって見ることができ、園長の言葉が各クラスの先生方の日々の頑張りと共通していると感じ、心地よく、保育者にも浸透しているように感じた。記入していただき、可能であれば、視察訪問の園長挨拶でお話しいただくというのもありなのではと思う。</p>
委員	<p>私は視察訪問自体が初めてなので、まず何を視点に参観するのかを明確に伝えていただけたら、とても実り多いものになるのではと</p>

	<p>思う。もう一点、私は午前中で終了するので、午後に面談がある場合その内容を聞くチャンスがないので、提出資料にも記入されていて、視点がはっきりしている内容がいいと思う。</p>
委員	<p>私も各園訪問の特別支援内容だけでは全体像が見えにくい。記入や初めの挨拶で話をしていただけたらいいと思う。</p>
委員	<p>やはり、全体の話は最初に聞かせてもらおうと良い。園長がどこに向かって子どもを育てているのかという部分と、職員に伝わっているかという部分が、視察訪問で共有し、参観できたら嬉しい。かといって園長と職員が離れている場合も嫌ではあるが、その把握も含めて様子を見ていけたらと思う。『子どもに何をさせているかというより、どこを目指しているかという部分』『この取組が子どもの資質・能力の育成につながっている』等、先生方の保育に少しでも出てくればいい。徐々に分かってきている、若い先生方もそういう保育の見方の芽生えがあると3年間で感じているので、今年度そこが深まっていったらいい。</p>
委員長	<p>補足ですが、小学校以降においては、校長を中心としたマネジメント、学校経営案が作成される。そういう部分がもともと保育所は制度としてなかったもので、認定こども園化された今、徐々に改善されつつあるが、西脇市に限らずまだまだのところも半数位あるかと思う。そのため、園の特色が、保育の内容ではなく、例えると英語活動や学研等になってしまっている。自園がどんな子どもを育てたいのか、目指していく保育についても、今後サポートしていかなければならないと考える。</p> <p>これまでの内容を事務局でまとめていただくということで、願います。</p>
	<p>5 その他について</p>
事務局	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料8 「3年度認定こども園保護者アンケート集計」</li> <li>・資料9 「保護者アンケート公表案（多可町参考）」</li> </ul>
委員長	<p>資料9は、ホームページにあげるような考えですか。</p>



事務局	はい。
委員長	保護者アンケートの内容を、ホームページに上げるに当たって、この結果を踏まえて、西脇市教育委員会としてはどのように考えているのかという問合せが市民からあるかと思う。そう考えると前置きのような記述や、考察的なもの、例えば『問①の結果を見ると、ここがすごく評価されています』また、『このような課題があると感じます』等記入する必要があると思う。
委員	視察訪問の3年間で見えてこなかった部分が保護者アンケートから出てきたというのが、正直な感想である。あまりチェックはしていなかった部分の指摘や、情報の発信方法について等、次に向けて、私たちももう少し意識していくと、更にその園の良さが見えてくると思う。自由記述を全部載せることは必要ないが、自由記述をした保護者側からすると、記入に対して何も反映されていないということは避けたい。
委員長	園や保護者への啓発的な意味で押さえておかないといけないのは、自由記述のいくつかの記述にある、いわゆる早期教育やお勉強系の要望についてである。早期教育については、視察訪問で推奨している訳ではなく、むしろ認定こども園教育・保育要領に限らず、これまで要領や指針に基づいた保育という点で、その部分は基本的には推奨されているものではない。幼児期の教育のあり方というのは、子どもの主体性が発揮される保育や非認知能力が重要で、これからの時代に必要ということ、市として保護者アンケートの結果とともに示していくと、早期教育を要望している方が気付けるのではと思う。保護者が、各園に要望を出し、各園が答えるだけでなく、市としても発信していけたらと思う。
委員	記述については、肯定的な意見だけでなく改善点も、市が共通して言えそうなところは出してもいいように思う。そして、早期教育的な部分を求める意見は出るだろうと思ったが、やっぱり出たという感じ。どう対応したらいいのか。
委員長	これは地道に、保護者に対して各園が『この取組が小学校のここ

	<p>に繋がっていく』『この育ちが小学校の基礎基盤になる』等伝えていく。文章で伝えてもなかなか伝わりにくいことなので、ドキュメンテーションや、写真1枚でも、そこにメッセージ性のある言葉を添えるとか、そういうことが必要ではないかと思う。</p>
委員	<p>親としては「うちの子は、字が書けない。」というような話になった時に、心配になる。そこに対して『主体的な』『環境を通して』幼児期の保育を理解していただくと、どっちも満足できるのではないか。</p>
委員長	<p>1年生、1学期の教科書では、こんなことを学びますという情報があると安心につながる気がする。例えば、ひらがなとかを学ぶというのを小学校で丁寧にやっていく。でも就学前に、文字に興味をもつことや、書きたいという欲求を満たしてあげることの大切さ等、保護者が心配になりそうな部分の情報を発信していけるといいと思う。</p>
委員	<p>早めに進める必要な子も中にはいるが、だからといってワークブックをするのではなく、そういう環境もちゃんと各園でそろえてもらってというのはあってもいいかなと思う。小学校としては、1年生に上がってくるにあたって、いかがか。</p>
委員	<p>基本的に、1年生担任が入学説明会で、「自分の名前が書けるという位で、書くことは丁寧に学校で教えるので。後は、ひらがなを読めるようにしていただいていると、うまくスタートができる。」と話している。でも、どうしても早くしたいのでお家で自由にやってくる子もいる。その子は直すのが大変。他の委員の意見を聞き、評価の中に園が頑張っていることが生きてくればいいのかと思う。小学校の学校評価でも『学校側はこういうことを頑張っているが、保護者に伝わっていないのはこちらの説明不足だ』とよく感じるが、こども園は自由に選べることもあり、多分、保護者はいろいろな情報やうわさ、実際の感想等を聞かれるだけでなく、園の頑張りがうまくアピールできればと感じた。</p>
委員	<p>ドキュメンテーションを頑張っている園は、ただ写真を貼っての報告だけではなく、10の姿をつけたり、子どもたちの主体性を入れ</p>

	<p>たり、工夫をされている。先生方は大変だが、写真と保育内容の意図が一致するよう適切に伝えて、その地道な取組が、保護者に向けて、園は預かっているのではなく、教育の視点をもちながら保育しているという、理解のスタートにつながる。さらに、例えば、生活発表会で『5歳児がスーホの白い馬をしました』という内容が、単に絵本の題材だけでなく、小学校の教科書の教材に出てくるとも伝え、『小学校のことも見据えて生活発表会をしているのだ』という安心にもつながる。小学校教育のタブレットにつながる、デジカメで写真を撮らせてみましたとか、保育の現場の先生方が小学校の教育を視野に入れた文言をドキュメンテーションに入れていくのも保護者に浸透する一歩なのかなと思う。</p>
委員	<p>情報をいかに分かりやすく伝えるかという部分が難しい。本当に聞いてほしい、見ていてほしいと思う保護者になかなか伝わらない。また、保護者によっては、情報を伝えすぎると余計に伝わらない、理解しにくいこともあるし、少なすぎても伝わらない。タイミングや伝えたい情報をいかに精選するかの工夫が必要である。情報があればあるほど逆に混乱して、変に勘違いして受け取られるケースも中にはあると思う。</p>
委員長	<p>別の視点で事務局に確認したい。各園の保護者アンケートの結果は、各園は御存知ですか。</p>
事務局	<p>園が配布、集計をして、それぞれの様式で提出されている。自園への要望やパーセントも全て把握されている。</p>
委員	<p>記述欄に『アンケートはアンケートボックスなどに入れるようにしてほしい』という意見があったのは理解した。</p>
委員	<p>もしかしたら、個別に回収して誰が書いたか分かる状態になっていたかもしれない。他市では、市が集めているのでドキドキして市から結果をもらっていた。マイナスの部分も、しっかり受け止めてもらえるようになればいい。先ほどの早期教育的なところをどうするのかも含めて、ちょっと考えてもらえるといいかもしれない。</p>
委員長	<p>保護者アンケートについて、4年度も同じように行うのか。3年</p>

事務局	<p>度に行っているなので敷居は低くなったと思うが、今後の見通しが事務局にあれば、教えていただきたい。</p> <p>3年度初めて行ったので、4年度も同様に実施しようと思っている。3年度は、回収率自体も園によってばらつきがある。回収率の上昇が保護者の園に対する関心にかかる指標になるという部分、3年度の結果を見ると、どの項目も『満足、おおむね満足』が9割近くあるが、その推移も視野に入れて、維持・できれば上昇というもの、西脇市の教育・保育の質とともに、指標にしたいと考えている。また、どこかのタイミングで項目等を見直すということになれば、御協議いただきたいと思っている。</p>
委員長	<p>全般的な傾向として保護者の評価が低い項目は問③、問⑤、問⑧、情報発信に係るようなところが課題なのだろうと思うので、それは各園にフィードバックする時に、情報発信をこまめにというところを意識していただいたら、次年度向上するということになるのではと思う。</p>
事務局	<p>いま協議いただいたアンケートの集計結果の公表について、いただいた御意見を踏まえ、事務局でまとめ直したいと思うので、確認をお願いします。</p>
委員長	<p>以上で議題が終了した。みなさんの円滑な審議、御意見に感謝する。進行を事務局にお返りする。</p> <p>5 次回開催予定</p>
事務局	<p>次回の会議は、8月25日（木）に予定している。内容については、前期の視察訪問を踏まえて各園の取組状況等について、協議をいただきたいと思っている。</p>
事務局	<p>閉会の前に教育創造部長、足立よりご挨拶申し上げます。</p>
部 長	<p>あいさつ</p>
事務局	<p>6 閉会</p>

	以上をもって、本日の会議を終了する。
--	--------------------